

# 新駅計画は住民投票で反対多数

## 反対票26,804票 投票総数の76%

### 市長、72億円の新駅計画「白紙撤回」表明

新駅計画の「住民投票」は投票率62.3%、投票者数35,322票のうち「反対」が26,804票となり、賛成票8,353票を上回りました。この結果、石津市長が私たち市民に提案した「事業費72億円、庁舎建設基金の振り替え」などの新駅計画は反対多数で、否決されました。



この投票結果を受け、市長は翌日（16日）記者会見を開き「多額な税金でつくる新駅計画」を白紙撤回しました。同時に、庁舎建設基金19億円の駅への財源流用も撤回。JRへの要望も今年度しないと明言しました。当然です。

### ボランティアとカンパで示した市民の良識

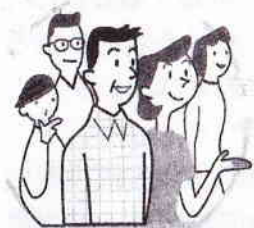
9月20日北本市議会が「住民投票条例」を制定し、議員の議会報告会でこの事実を知り、多額な税金でつくる新駅計画、それを裏付ける財源が準備されておらず、庁舎建設基金を新駅に使うなど、市民感覚から大きく外れていることに、私たち市民は危機感を持ちました。誰からとも、呼びかけるわけではなく、自然発生的に集まり「市民の会」が出来上がりました。

人もいない、資金もないスタートでしたが、人が人を呼び活動の輪が広がりました。大勢の市民からカンパをいただきました。税金1355万円補助された「新駅促進期成会」に比べ、清貧の市民活動でしたが、最後まで市民の良識を信じ、誇りを持って進めました。



# 反対多数でまち全体に広がる市民の安堵感

今回の住民投票の特徴は、期日前投票が日を追うごとに増え、10,864人と過去最高の投票者でした。20代、30代、40代の女性が多く、若い男性の姿も大勢見られ、これまでの選挙とは違った光景です。北本市民の、それも若い市民の琴線に触れる何かがあったようです。



反対多数が確定し、多額な税金でつくる新駅計画が否決されたことを聞いた市民は、一様に「安堵」の声を上げました。福祉の危機を感じていた市民もいました。借金の負担を感じた若い有権者もいました。まち全体に「ほっと」した雰囲気広がっています。重苦しい2ヶ月が終わりました。

この「多額な税金を使う新駅計画」が、いかに市民にとって将来を見据えた「重い」判断であったかです。これを乗り越え、賛成・反対の市民の枠を超え、未来に向かって「市民の力」を結集し、進んでいくことが重要です。

## 新駅の是非を超え市長・議会への不信が票に

投票率60%を超えたことも脅威ですが、反対票が投票総数の76%もあることから、新駅設置の住民投票でしたが、石津市長と一部議員の政治手法に対する、批判と不信の表れと見るすることができます。地方自治法では、市長及び議員の解職、議会の解散請求は、有権者(56,656人)の3分の一(18,900人)が要件です。



今回の反対票は26,804人と、リコール請求の要件をはるかに超える人数です。市民は住民投票で、今の市政に市民に向き合う真摯な姿勢を求め、猛省をうながしたと見るすることができます。

## ストップ!!新駅市民の会報

発行：新駅の住民投票へ行こう市民の会（共同代表：平田正昭）  
／税金負担による新駅に反対する市民の会（共同代表：森谷哲）  
／北本のまちづくりを考える市民の会（会長：杉田仙太郎）  
／新駅建設に反対する市北部地域の市民の会（代表：岡田勝雄）  
共同事務所：北本市中央4-36 電話592-6711



# 市民、石津市長による新駅推進を拒否

市民の皆さん、新駅の住民投票では大変お世話になりました。皆様の北本市を愛する気持ちと良識で、石津市長が提案した「多額な税金を使う新駅建設計画」を大差で否決しました。これは市民による「住民自治」へのスタートになったと、大変意を強くしています。

多くの市民は、駅設置そのものを否定しないが、市民感情を無視した石津市長による新駅建設の提案は、いかなる理由があろうと許されないものです。今後も、北本市政をしっかりと監視し、市民のための政治を目指して力を合わせていきましょう。住民投票を終え、私たちの見解を申し添え感謝の言葉に代させていただきます。

## 住民投票を終えて

「ほぼ全額税金で、北本市のみの負担も多く、地権者や桶川市との協議も不十分な新駅計画」に対して、北本市民は「否」の判断をした。もとより、私たち市民の会は、今回の住民投票を、「駅が必要か」、「不要か」という駅に対しての「推進派」とか「反対派」とか、「まちを二分する」といった争いをしてきたわけではないことを改めて申し上げる。

「賛成」が過半数を超えれば、事後の住民負担が限りなく増加し、医療・福祉・教育等様々な分野に支障をきたすことが予測され、「反対」が上回れば、これまで30年以上にわたって新駅を待ち望んできた市民に「失望」を与えることになるが、私たちは、駅の建設そのものには異をとらえていない。「資金の大半を北本市だけの税金投入で建設する」ことに対して「否」としている。住民投票では、市長が示した新駅計画の賛否について住民に投げかけられた以上は、その結果を出さなければならないために、いずれかへの苦渋の判断をしたものである。

求めている新駅は請願駅であることから、将来に向けてまったく門戸を閉ざされたわけではない。条件を整えばいつでも請願できる性質のものであり、駅の建設は受益者となる北本市民と桶川市民がともに手を携え、予定地となる地権者の了解を取り付け、関係者が等しく応分の負担と利益を享受することを納得した上で推進すべきものであると考える。

## 石津市長の提案に26800人が反対

今回の住民投票は、「新駅に反対ではない」、「ほぼ全額税金でつくる石津市長の提案に反対したのだ」。このことに、市長も議会も勘違いしないでいただきたい。

われわれ市民の会は、市民大会宣言でも申し上げたが、税金で新駅を建設する前に、

(1) 救急医療や小児科、産科等の医療の整備。(2) 働くお母さんを応援する保育・子育て、教育の充実。(3) 交流を進める公共交通の整備を優先することを望んでいる。

この訴えが、20代、30代の若者と高齢者世代の投票率を大幅に引き上げた要因と見ている。若者に負担の重い、35億円の借金も理由になっている。

## 市長交付の1355万円補助金を糾弾

また、庁舎建設基金が手元にある今だから、これを流用しようという乱暴な考えは、市民として到底受け入れられない。合わせて、「バラ色」の計画のみを1千数百万円以上の税金を使い、市民に説明してきた市長には、深く反省することを要求する。

住民意思としての結果が出された以上、そのことを重視し、以後に「しこり」を残すようなことがあってはならない。今後は、より良い北本市を後世に残すため、北本市民が一丸となって「街づくり」を推進していくことを期待する。

新駅建設問題は、市長に一任する現在の議会にも問題があると考えている。今後は、住民投票の結果を真摯に受け止め、市民の「税金の使い方」に対する意向をしっかりと確認してもらいたい。

福祉の充実と新駅を待ち望んでいる市民のためにも、全市的に合意形成が図れるよう議会の総力を挙げて取り組むことを期待する。

平成25年12月15日

新駅の住民投票へ行こう市民の会  
税金負担による新駅に反対する市民の会  
北本のまちづくりを考える市民の会  
新駅建設に反対する市北部地域の市民の会

## ありがとうございました!カンパ総額498,514円

住民投票の反対運動は、市民の皆さんから寄せられたカンパで進めました。運動期間中に頂いた総額は、498,514円（12月21日現在）でした。心より感謝いたします。皆様から頂いたカンパは、チラシの印刷代、街宣車の経費、集会の会場費、のぼり旗などに使わせていただきました。

市長は、「新駅促進期成会」に1355万円補助し、反対する市民団体には補助しないと、税金の使い方に公平性を欠きました。このことが、ある意味「市民の怒り」を助長したと考えています。このような、不合理的な市政運営に、正義の反対票26,804票が投じられたと思います。石津市長と予算に賛成した議員の、不当な態度を忘れないようにしましょう。

また、新駅促進期成会へ1355万円の不公平、不適切な補助金の交付を糾弾する意味もある。特に、この税金でつくられた「新駅のチラシ」は、ポスティングされるごとに「怒り」が増幅していた。

市長が、反対運動しているわれわれの活動を、激しい言葉で批判、非難するたびに、市民の怒りが広がった。反対多数にいたる最大の功労者は「石津市長ではないか」と皮肉をいう市民もいる。

それにしても、不手際の多い住民投票であった。選挙管理委員会の対応は、投票に対する信頼を揺るがすものだ。投票所入場券の遅配は目に余る。投票用紙の記入の仕方の啓発も不十分であった。それでも、60%を超える投票率は、市民の「北本市の未来に対する危機意識」であったと思う。

## 石津市長と議会の責任を問う

投票後の市長の記者会見も、自分が提案した事業計画が大差で否決されたのに、事業白紙撤回を述べたが、いまだ事業の正当性を語る見苦しさである。政治的責任の自覚のないことに、辞任した知事同様、おごりと裸の王様の姿を垣間見る。

これで信頼できる政治、まちづくりを進められると思っているのか。市長だけではない。補助金に賛成した議員ともに、監視の目を強める以外にはなそうである。